

す。

C 弁当のときに泣きだす子どもがいます。無理にたべさせてはいけませんね。

平井 ジャーシルドは、食事は母と子との鬭争だと言っています。母親は無理にたべさせようとして、子どもはそれに対して逃げている。子どもが興味をもってたべるということがいちばんです。それは母親の指導以外に考えられません。たくさんたべることは、熱量が多いが子どもが楽しくたべていないのです。少ししかたべないからといって栄養失調になると考える母親は、こういう考え方から解放されなければなりません。あまりたべがらない子どもは、集団生活や絶食などをすれば、すぐになります。

問 そしゃくの不十分な子どもはどうしたらしいのでしょうか。また早く弁当をたべ終つた子どもは、どうしたらよいでしょう。

平井 早く終つてブランコをとろうとする子どももいるのではないかですか。

よくかむということですが、歯医者の立場からみると、子どもの歯はがたがくつてしまっているのが多く、あの歯ではかめないといふことです。

問 幼児の清潔の問題についておきかせく

ださい。

平井 清潔にするということを幼児に自発的にさせるのは、無理ではないかと思います。小学校二、三年くらいからは自分ですすんでいたますが、それ以下の年令では、周囲からの働きかけ——特に母親の指導で母親

がやる気にならなければダメですね。

弁当の問題でも、やる気にならなければしかしたがないし、またやりたくても水道の便が悪かったりして、だめになつたりします。また、砂の中にはいると伝染病になるといふような迷信をとりけずには母親との話し合いや環境など、さまざまな理解が必要なのです。

問 他にこうしたことは、ぜひ園でするようにならうことがあつたら教えてください。

平井 積極的健康保育の最低線として、医者の立場からいえば、子どもを死なせないとすることです。赤痢、疫痢、大腸かかるなどの消化器系の病気と、もう一つは、木から落ちたり、交通事故のような不慮の災難から、完全に子どもを守らなければいけません。地域的な問題もありますが、前者は、手を洗う、買いくいをやめさせるというようなことで守ることができるのです。こうなると食生活の点で指導することも必要になってきます。子どもにとって買いくいは抜け穴なのですから。

幼稚園と小学校との連絡について

指導武田一郎

問 小学校の教科と、幼稚園の六領域に一貫性を保つためにはどんな問題がありますか。

武田 幼稚園の六領域には、どうしても小学校の教科と結びつかないものが出でてきます。幼稚園の総合的な領域に対し、小学校の教科主義的な受け入れかたちによつて無理があるようです。ですから幼稚園から小学校に

強く働きかけて、せめて小学校の一学期間だけでもそのうけいれ準備をしてくれるよう要請すべきです。それぞれの指導要領ができた時期からみて、厳密のいみでは連絡はないのです。たとえば、小学校においては「社会」は身辺的な問題から範囲が拡大されて、それぞれの知識となつていくが、幼稚園の「社会」では生活指導の内容が多くなつていま

す。だから一つ一つの項目にわたって関連づけようとするには、だいぶ無理があるのであります。成長・発達の理念、内容範囲は一貫性があり、個々の内容にはかさなりがあるものが多いため、現在文部省でも検討中です。

問 カリキュラムで年間目標と実践計画をどのようにたてれば、小学校との連絡がうまくいくでしょうか。

武田 私の学校では、一年の担任を毎年一ヶ月にきめまして、幼稚園を参観させます。この場合、小学校の先生も幼稚園でいちおう教えてみるとよいのですが、そうもいきませんからよくみていただきます。そして幼稚園の現場をよくみたあとで、両方の先生がよく話しあいます。生活指導の場合などでは、幼稚園、小学校、中学校、高等学校的全部が連絡委員会をもって、一貫した指導をするように話し合う機会をもっています。

A 生活指導の目標は、小学校では教科別ですが、幼稚園では具体的に一人の子どもの興味に沿ってします。たとえば製作活動などは、興味のない子はしないで、別のことをしていますが、小学校ではいっせいにやります。その違いが問題だと思います。また幼稚園にいかないで小学校に入学した子どもの場

合も問題ですね。幼稚園で興味や創造性をのばし、のびのびと育った子どもが小学校でたえられるようです。

問 併設幼稚園のばあいの組の編成について、幼・小の連絡をどのように考慮すべきでしょくか。

A 私は幼稚園と小学校を兼務していますが、両者はとかく感情的なまつがありまます。そのため、一昨年の組の編成について

は幼稚園との話し合いをしないで、小学校のみで知能テストや身体状況、知識の有無によって組をわけたら大問題が起つたのです。どちらよろみていただきます。そして幼稚園の場合は幼稚園との話し合いをしないで、小学校の問題視されるし、担任教師の苦労はなみたいていではありませんでした。これではいけないのは、一組にいわゆる悪い子や問題児が集つて、特殊学級的になつたので、父兄から

京都で幼稚教育研究会をつくったとき、三十名から五十名の先生が集りましたが、そのうち小学校の先生は二名か三名でした。その先生は翌年には一年生の担任ではなくなるの観がおこなわれることになりました。

武田 大変よいことです。八、九年前東京都で幼稚教育研究会をつくったとき、三十名から五十名の先生が集りましたが、そのうち小学校の先生は二名か三名でした。その先生は翌年には一年生の担任ではなくなるの観があつて、たがいによく知りあうように努力しました。そのため感情的にも、ほぐれましたし、子どもの特質も理解でき、とても都合よく組の編成ができるようになりました。これは私の貴重な体験の一つですがこのことから考えてみても、幼稚園と小学校は手を結び合つていかなければならぬと思いま

(お茶の水女子大学付属幼稚園にて)